

これも今は昔、絵仏師良秀といふありけり。
係助 係助 四段・体 ラ変・用 格助 『人』が省略 過去「けり」終

家の隣より、火出でて、風おしおほひてせめ
格助 格助 力変・用 接頭語「おし」+四段・用 下二・用 格助 完了「ぬ」用

ければ、逃げ出でて、大路へ出でにけり。
過去「けり」已 格助 完了「ぬ」用 下二・用 過去「けり」終

人の書かする仏もおはしけり。
格助 使役「ず」体 サ変・用 係助 ◎作者↓仏 過去「けり」終

また、衣着ぬ妻子なども、さながら内にあり
(きぬ)上二・用 (めこ) 下二・用 格助 格助 格助 格助 格助

けり。それも知らず、ただ逃げ出でたることに
過去「けり」体 四段・未 副詞 完了「たり」体 格助 係助 打消「ず」用 下二・用 格助

して、向かひのつらに立てり。
サ変・用 格助 格助 完了「り」終 係助 四段・已

見れば、すでに我が家に移りて、煙・炎、くゆり
上二・已 格助 格助 格助 格助 格助 四段・用

けるまで、おほかた、向かひのつらに立ち眺め
副詞 格助 格助 四段・用 下二・用 格助 格助

ければ、「あさましきこと。」とて、人ども、
過去「けり」已 形シク・体 格助 格助 格助

来とぶらひけれど、さわがず。
四段・用 格助 四段・未 過去「けり」已 打消「ず」終

「いかに。」と人言ひければ、向かひに立ち、
副詞 格助 過去「けり」已 格助 格助 格助 格助

家の焼くるを見て、うちうなづきて、時々笑ひ
格助 格助 接頭語「うち」+四段・用 格助 四段・用

けり。
過去「けり」終

これも今となっては昔のことだが、絵仏師の良秀と
いうものがいた。

家の隣から、火が出て、風(その火に)覆いかぶ
さって迫ってきたので、

(良秀は)逃げ出して、大通りに出てしまった。

(家には)人が(注文して)描かせている仏もいらっ
しやった。

また、着物を着ていない妻子なども、そのまま家の
中にいた。

それも気にせず、ただ逃げ出したのを良いことに、

(家の)向かい側に立っていた。

見ると、既に(火は)自分の家に移って、煙や炎が

立ちのぼるまで、ほとんど向かい側に立って眺めて

いたので、「たいへんな事(ですね)」と言って、
人々が、

見舞いに来たけれど、騒がない。

「どうしたのですか」とある(人が尋ねたところ、
(良秀は家の)向かい側に立って、
家が焼けるのを見て、うなづいて、時々笑っていた。